令和６年３月１日
世田谷区立太子堂中学校
校 長　髙山　知機

令和６年度に向けた改善方策

重点目標１　一人一人を大切にする教育の推進

◎ 一人一人を大切にする教育の推進
　全教職員が生徒一人一人の個性や能力、特性、生活状況などを把握し、丁寧で適切な指導や支援を徹底する。生徒理解のための様々な資料や活動を取り入れ、保護者や学校支援コーディネーター、地域人材とも連携しながら、全ての生徒の自己実現と居場所の確保を目指し、健全な成長と豊かな心の醸成を目指す。

◎ レジリエンスの育成
　変化の激しい世の中を自らの力で逞しく生き抜いていける「生きる力」を育てる。失敗しても立ち直ることのできる精神的回復力、折れない心を育み他者と支えながら逞しさとしなやかさをもった人間として、自尊感情と自己効力感といった社会を生き抜く力（レジリエンス）を培う指導を行う。

◎ 社会を生き抜く力を身に付ける
　発達段階に即し、自らの生き方を考え、主体的で探究的な学習を実践することで、学んだことが将来につながり自らの意思をもって進路を選択できるよう、キャリア・未来デザイン教育の充実を図る。

＜数値による指標＞ 学校関係者評価アンケート、生徒アンケート、各学力調査等を分析し検証を行う。
（１）学校生活は楽しい。（生徒：90%以上）
（２）一人一人を大切にする授業や学校行事が行われている。（生徒：80%以上）
（３）困ったことがあったら誰かに相談することができる。（生徒：80%以上）
（４）本校は、生徒一人一人を大切にした教育を行っている。（保護者：80%以上）
（５）「キャリア・パスポート」を使用し、普段の学習や生活を振り返り、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりすることができた。（生徒：70%以上）

＜具現化のための方策＞
・小規模校であることを生かし、担任や学年を越えて、地域や保護者も含め、複数の目で生徒を見守ることで、一人一人を大切にする教育を進めていく。
・学校支援地域本部の活用を広げ、生徒の個別対応やボランティア拡充、読書活動推進など、より一層の充実を図る。
・一人一人に視点をあて激励、指導助言をする中で主体的に物事に取り組む姿勢を育成する。
・様々な活動に主体的に取り組ませ、困難なことに直面しても自分で考え、また人の助けを借りて乗り越えていく力を身に付けさせる。
・自分で考え判断し取り組ませる中で自己肯定感や自己有用感を養う。

重点目標２　学力の向上を図る教育の推進

◎ 「わかる授業」の展開
　学習の「目的」「聞く」「考える」「作業（調べる、演習、実技等）」を明確にした、メリハリのある「わかる授業」を展開していく。また、授業規律を重視し、生徒に授業を大切にする姿勢を育成し基礎学力の向上を目指す。

◎ 家庭学習への取組（習慣化）
　学力の定着に効果的な家庭学習の習慣化を進める。家庭学習のきっかけを作る具体的な取組として「学習課題の提示」を丁寧に指導する。各家庭の子どもへの励ましと家庭学習への促し等の協力体制をお願いする。

＜数値による指標＞ 学校関係者評価アンケート、生徒アンケート、各学力調査等を分析し検証を行う。

（１）先生は自分で考えることや、課題を解決することを大切にした授業をしている。（生徒：85％以上）

（２）宿題や課題などが適切に出され、家庭学習が充実するよう工夫されている。
（生徒・保護者：80％以上）

（３）家庭学習が定着しつつある。（生徒・保護者：80％以上）

（４）水曜学習教室や家庭学習、夏休みの学習教室は、生徒の基礎学力の補充・向上に役立っている。
（生徒：70％以上）

＜具現化のための方策＞

・「授業スローガン」への取組や「相互授業観察」「生徒による授業アンケート」（7月・12月に実施）の分析を実施し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を行い、分かりやすい授業を創り上げる。

・主体的な学習を進め、復習を中心とした質の高い家庭学習の取組を習慣付けるために、授業の復習ポイントを適切に示し宿題や課題などを適切に提示する。

・家庭学習について全教員が十分に共通理解をし、各教科担当より家庭学習の内容・方法について示した「家庭学習の進め方」の冊子を作成し、生徒・保護者に配布・説明をする。学期ごとに検証し、修正を加えながら実施していく。

・生徒の主体的な学習に結び付くよう、授業の中で問題解決的な学習、体験的な学習の実践を進める。家庭学習について、各自の学力にあった課題を自ら選ばせ取り組ませることで、学習成果の実感を生徒にもたせ、より主体的な学びに向かう姿勢を育む。

重点目標３　生徒の主体的な活動の活性化

◎ 生徒が主体として取り組む学校行事の実践

一人一人が何らかの役割を担う形で学校行事を実施する。この取組を単なる「その時だけの行事（点）」で終わらせず、「取組前の指導」「取組」「取組後の振り返り」と一連の指導形態をとり、日々の学校生活の中で成長を確認しながら、次の行事へつないでいくように計画して指導する。

◎ 生徒理解に基づく信頼関係構築の強化

WEB-QU調査の結果を活用して、学校・学級への適応状況を把握しながらスクールカウンセラー等の専門的な助言に基づき生徒と教員との信頼関係を強化していく。

＜数値による指標＞ 学校関係者評価アンケート、生徒アンケート、各学力調査等を分析し検証を行う

（１）基本的生活習慣（服装や言葉遣いや礼儀など）が身に付いている。（生徒・保護者・地域：80％以上）

（２）部活動は楽しく、達成感がある。（生徒・保護者：85％以上）

（３）「大志の学び舎」の活動は、小学校との適切な交流がなされている。（生徒：80％以上）

（４）相手の意見を聴きながら、自分の考えを伝える力が身についている。（生徒：80％以上）

（５）様々な活動に主体的に取り組み、困難なことに直面しても自分で考え、また人の助けを借りて乗り越えていく力を身につけている。（生徒：80％以上）

＜具現化のための方策＞

・生徒会活動や部活動においては、生徒一人一人に自治的能力や責任感、忍耐力を身に付けさせ、技術や技能を高めさせる。そして、仲間と強調し、協力してやり遂げる充足感を味わわせ、社会性や協調性を身につけさせる。

・地域行事やボランティア活動への参加を推奨し、伝統文化継承や防災教育など、地域に根差した教育を充実させる。また、学校協議会及び学校運営委員会を活性化させるとともに、PTA 役員をはじめとする保護者や地域の方々の教育活動への積極的な参加を推し進め、地域教育力の一層の向上を目指す。